長野市民病院にロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術にて 過去に入院された患者さんまたはご家族の方へ看護研究にご協力をお願い致します。

2025年10月16日

「ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術における膀胱テネスムス症状とせん妄の関係性」に 関する看護研究を実施する予定です。

長野市民病院倫理委員会の審査による長野市民病院長の承認を得て実施しています。この研究は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開し可能な限り拒否の機会を保障することが必要とされています。

| 倫理審査承認番号 | 2025 市病倫第 0061 号 |
|----------|--|
| 研究課題名 | ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術(以下 RALP とする)術後にお |
| | ける膀胱テネスムス症状とせん妄の関係性 |
| 所属 | 看護部 |
| 研究実施期間 | 倫理委員会承認後~2025 年 12 月 31 日 |
| 研究の意義、目的 | 5 西病棟は泌尿器科手術を受けた患者さんが多く入院していま |
| | す。その中で RALP を受ける患者さんが最も多く、2023 年には |
| | 150 件の RALP 手術が行われました。 |
| | RALP 術後には安静や排液等の目的で膀胱留置カテーテルが7日 |
| | 間留置されますが、これは他科の手術と比べ長期です。術直後や術 |
| | 後1日目を中心に膀胱留置カテーテルによる膀胱テネスムスという |
| | 強い不快感・違和感が出現する患者さんも多くいます。膀胱テネス |
| | ムスの出現は、せん妄の誘発原因になり得るという先行研究(「術 |
| | 後せん妄の誘発因子に対する高齢者の反応」)を受け、RALP 患者さ |
| | んにおける膀胱テネスムスの出現や症状、程度はせん妄出現と関連 |
| | があるのか疑問が生じ、明らかにしたいと考えます。また、RALP |
| | 患者さんの術後の看護において、膀胱留置カテーテルによる膀胱テ |
| | ネスムスの不快感を早期から取り除くことでせん妄予防ができると |
| | 考えました。 |
| | |
| 対象となる方 | RALP の手術を施行した患者さん(2024 年 4 月~2025 年 3 月) |

| 研究方法、利用す | ① 膀胱テネスムスの有無、程度 |
|----------|----------------------------------|
| る診療記録 | ② 術後せん妄の出現の有無 |
| | ③ 患者背景 |
| | 年齢:70歳以上、69歳未満、高齢者の日常生活自立度(術前 |
| | ADL):J(何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立してお |
| | り、独力で外出する)・A(屋内での生活は概ね自立しているが、介 |
| | 助なしには外出しない)以下、認知症高齢者の日常生活自立度:自 |
| | 立・I(なんらかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社 |
| | 会的にほぼ自立している)以下、手術時間:5時間以上・5時間未 |
| | 満、ハイリスク薬内服:あり・なし、術前血圧と比較して、術後帰 |
| | 室時血圧が 20%以上低下・低下なしまたは 20%未満の低下 |
| 研究者 | 研究責任者:病棟師長 永井香奈子 |
| | 研究者:淺田野乃 髙橋温杜 和田依央理 (看護師) |
| 問い合わせ先 | 施設の名称:長野市民病院 5 西病棟 |
| | 電話:026-295-1199 (代表) |
| | 氏名 (所属・職名):淺田野乃 髙橋温杜 和田依央理 |
| | (看護部・5 西病棟 看護師) |

既存の診療記録を調査、集計しますので新たな診療や検査、検体の採取の必要はありません。研究成果は今後の医学の発展に役立つように院内で発表しますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の診療記録を利用することをご了承頂けない場合、またはご不明な点については、上記問い合わせ先まで研究実施期間中に御連絡くださいますようお願い申し上げます。

研究不参加を申し出られた場合でもなんら不利益を受けることはありません。